

新聞に親しみ、新聞で学ぶ

指定校1年次 上松町立上松小学校

丸山 晃男 中原 加代子 中澤 容子

上原 誠 池口 真由美 伴 優美 仁城 崇晴

1 本校の新聞活用（NIE）の現状

本校は、児童数179名、10学級の山間地小規模校である。保育園からほぼ同じメンバーで過ごしてきた子どもたちは、日々の学校生活の中であえて言葉にださなくてもわかり合えるような親しい人間関係が構築されている。一方で、固定化した人間関係や思春期ならではの悩み、親しいが故に自分の気持ちや思いを伝える場面が少なく、表現することへの戸惑いやうまく伝えられないことから生ずる軋轢なども抱えているため、本校では重点活動に「表現」が位置づけられている。

今年度、NIE指定1年目ということで、まずは新聞に親しむことからはじめた。全校が教室へ向かう途中の中央廊下に新聞コーナーを設け、興味・関心をもってもらうことをねらいとした。今まで修学旅行や臨海学習、社会見学や遠足などの学年行事、運動会や音楽会などの学校行事では、各クラスや児童会を中心に新聞にまとめる活動をしてきている。高学年では、新聞作りの出前授業やスクラップ新聞作りなど外部講師を招いての活動も行ってきた。しかし、積極的に新聞を活用する実践は少なかったため、今回研究指定を受けたことを貴重な機会としてとらえ、教科学習と関連させながら子どもたち自ら考え、表現する力を高めていきたいと考え、取り組みを始めることとした。

（校内組織の都合上、高学年での実践とする）

2 実践のねらい（育てたい力）

今年度は新聞活用（NIE）をどのように位置づけ、どのような力を育てていくかを高学年の実践を中心に積み重ね、来年度へつなげていく1年次と考えている。そこで育てたい力を次のように設定した。

低学年…新聞で文字探しや新聞を使った遊び、工作をすることを通して、新聞に興味をもつ。

中学年…新聞記事や見出し、写真等から感じたことを交流したり、行事を新聞にまとめたりする活動を通して、新聞に興味をもち、伝える力を育てる。

高学年…新聞記事のスクラップや記事の要約、感想の交流を通して、書く力、読む力、伝える力を育てる。

3 研究の概要

（1）新聞コーナーの設置

全校が教室へ向かう際に必ず通る中央廊下に新聞コーナーを設置した。もともと「こども新聞」の展示場所であったが、NIE指定校になり7紙（朝日、読売、中日、産経、日経、信毎、毎日こども新聞）が届けられるので、子どもたちが自由に手にとれるようにした。



(2) 各学年の取り組みの様子（高学年）

4年生…長野旅行のまとめを新聞・冊子形式で行い、紹介する。新聞係による学級新聞の発行。信濃毎日新聞社見学を受けて、新聞の構成や見出し、写真の使い方を学習する。社会で長野県の市町村を学習し、市町村に関する記事を集めスクラップにしていく。

5年生…臨海学習のまとめを新聞形式で行い、紹介する。新聞係による学級新聞の発行。スクラップノートを活用し毎週1回興味のある記事を選び感想を書く。

6年生…運動会のまとめを新聞形式で行い、紹介する。新聞係による学級新聞の発行。スクラップノートを活用し、毎週1回興味のある記事を選び感想を書く。読み書きノートを活用した信毎「斜面」の視写。



(3) 実践授業

【5学年】

I 教科・単元名 国語科「自分の考えを伝えよう」

II 単元展開（全4時間）

時数	活動	内容
第1時 (読む力) (調べる力) (語彙力)	<ul style="list-style-type: none"> 記事を選ぶ 記事を読む 意味調べ 	<ul style="list-style-type: none"> 今までスクラップしてきた記事の中から、自分が伝えたいと思った記事を選ぶ。 選んだ記事を読み返し、心に残った文章や言葉に線を引く。 記事の中でわからない言葉を調べる。 新聞記事の構成を確認する。(リード文、5W1H等)
第2時(本時) (書く力)	<ul style="list-style-type: none"> 感想をかく 伝えたいことをまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートをもとに記事を読みとり、理由や感じたこと、伝えたいことなどを書く。
第3時 (伝える力)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝える 友の考えを聞く 	<ul style="list-style-type: none"> グループで発表し合い、感想を伝え合う。

III 本時案

(1) 主眼：新聞スクラップや行事のまとめ新聞作りなどから新聞に親しみはじめた子どもたちが、自分の興味のある記事から感じたことや伝えたいこと、その根拠や疑問を明らかにすることを通して、自分なりに考えたことや伝えたいことを書くことができる。

(2) 本時の位置（第2時／全3時間）

前時：今までスクラップしてきた記事の中から、自分が伝えたいと思った記事を選び、わからない言葉を調べ、心に残った部分に線を引いた。新聞の構成を確認した。

次時：ワークシートをもとにまとめた自分の考えを紹介する。

(3) 展開

学習活動	子どもの反応	支援・評価
学習問題：新聞記事から考えたことや伝えたいことを書こう		
1 自分の選んだ記事を読み返す	<ul style="list-style-type: none"> •この記事には「 」なことが書いてあったな～。 •この記事を読んで、ぼくは「 」思った •この記事から私は、「 」をみんなに伝えたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> •前時のワークシートを見ながら、わからない言葉や感想を確認する。
学習課題：ワークシートをつかって、疑問や感想、要旨をまとめよう		
2 ワークシートにまとめる	<ul style="list-style-type: none"> •この記事が伝えているのは「 」ことだ •自分はこの記事の「 」の文章が心に残ってる。 •この記事の「 」ことをみんなに知ってほしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> •ワークシートにしたがって、自分の感じたことや伝えたいことをまとめていく。 •段落ごとに要旨をまとめながら、記事を読む。(リード文を意識させる)
3 書いた原稿を読み返し、伝えるための修正をする	<ul style="list-style-type: none"> •どうすればわかりやすく伝えることができるかな？ •言葉をかえた方がいいかもい。 •読み方の工夫も必要かな。 	<ul style="list-style-type: none"> •次時に発表することをふまえ、聞き手にわかりやすく伝えるための工夫を考えさせる。 •工夫を紹介し、共有する。

4 研究のまとめ(成果と課題～5学年授業研究会・ご指導から～)

- 話し合いはペア、グループをはっきりさせて行くと効果がある。できるだけ小さい単位のほうが効果は大きい。
- 新聞は中2レベルの漢字で書かれている。小学生にとって難しさは否めない。新聞(記事)に興味をもつ、今後必要とされる長文読解の基礎を養っているという気持ちで取り組んでほしい。
- 5W1Hの扱いをていねいに行う。
- ワークシートの工夫。今回のシートは①タイトル②理由③要約だったが、②と③を入れ替えた方が書きやすかったかもしれない。
- 「新聞を読む(理解する)」ことの難しさを痛感した。小学生にとって、記事の内容を理解するには時間と根気が必要。しかし、自分で選んだ記事だからその困難さを乗り越えていこうとする姿が見られた。教科書の題材とは違った良さがあることがわかった。
- 「書く(表現する)」ことは、国語に限らず全教科で必要とされる力なので、ていねいに扱っていきたい。
- 同じ記事でも感じ方が違う、その違いを認め合えることが重要なので、普段の学級経営も大切。
- 興味、関心から学習がスタートするので、他教科でもいかに興味をもたせるかを(特に導入部分)今後の課題としたい。
- 「新聞で授業を考える」のではなく、「補助教材的に使える部分を探す」ことで日頃の授業に取り入れていきたい。

【6学年】

I 教科・単元名 社会科「わたしたちの暮らしと国会～選挙を通して考える～」

II 単元展開（全7時間）

時数	目標	活動内容
1	公約ってなにか考えよう	児童会選挙と衆議院選挙の類似点を見つけ、公約はどんな争点があるかを調べ、キーワードを決めた。
2	キーワードに関する記事を見つけよう	新聞記事の中から自分の気になる公約に関する記事を見つけ、選ぶ。（記事を切り取る） 「政権審判」「外交」「憲法改正」「消費増税」「教育費無償」「子育て環境」の6つのテーマになる
3	キーワードをまとめよう	見つけた記事を各党の主張が分かるよう模造紙スクラップにまとめた。
4	政策を見比べよう	それぞれのキーワードについて各政党の主張を比べてみる
5	これからどうなる？日本	スクラップした記事をみんなで見合い、これからどんな日本になっていくか予想する。
6	国会は私たちの願いをかなえてくれるのか考えよう？（本時）	私たち（国民）が望んでいることと政府がおこないたいことが同じ方向を向いているか考える。
7	国や役場の役割についてまとめよう	国会の役割、内閣の役割、（裁判所の役割）そして県庁、町役場それぞれの役割についてまとめる。

III 本時案

(1) 主眼 選挙前と選挙後の政権運営に関してキーワードを通して動向をまとめた子どもたちがお互いの立場から政府が国民目線になっているかについて考えを伝え合うことを通して国会の役割を自分なりにとらえることができる。

(2) 本時の位置

前時：選挙後のキーワードに関する、記事をスクラップしこれからどんな日本になっていくか予想した。

次時：学習のまとめとして国会から政治の仕組みがどう広がっていくか調べる。

(3) 展開

学習活動	子どもの反応	支援・評価
1 政権がしたいことと国民が望んでいることを確認する	<ul style="list-style-type: none"> 「消費増税をして国債を返したい」 「政権に賛成する声が多かったから憲法改正をしよう」 「外国が攻撃してきても守れる強い国を作りたいと考えている」 「わたしたちは増税して得たお金を教育費無償化や子育て支援に使ってほしいと思っている。」 「政権は消費増税より憲法改正を先にしたいって言っている。どうしてだろう？」 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのテーマで調べてきたことを振り返り、「消費増税」「外交問題」の2点に絞り、政権がしたいことと国民が望んでいることについて意見を出す。（10分）
学習問題：政権が大事にしたいことと私たち（国民）の願いは同じかな？		
2 新聞記事の中から根拠を探し、政権と国民の思いの差異を見つける	<ul style="list-style-type: none"> 「消費増税は、景気が良くなるとできないって書いてある。景気が良くなると増税しないのかな」 「教育費無償化にするためには1兆円ものお金がかかるって書いてある。このお金ってどこからくるのかな？」 	<ul style="list-style-type: none"> 消費増税するとどうなるか？ 憲法改正はなんのため？ ということについてそれぞれの立場から意見を述べるよう促す

	<ul style="list-style-type: none"> •「保育園が誰でも入れるといいなと思う。けどそれにもお金が…」 •「憲法を変えるのは今のままだと外国が攻めてきたときに対応できないから」 •「選挙で政府与党は賛成を得たから国民が憲法改正に賛成するっていること？」 •「憲法改正には推進派と反対派がいていまはまだ議論をしているよ」 •「消費増税はいやだけど、有効に使ってほしい。」 •「憲法改正になるかどうかはまだ分からないけど安心して過ごせる日本であってほしい。」 	<p>意見が出たところで自分の思いを出し、相違点をまとめる (25分)</p>
<p>3 国会の役割について考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> •「日本の国全体がよくなるために選挙で選ばれた国会議員の人が話し合いをして決めている」 •「与党だけでは、一方的に決まってしまう話も、野党がいることで議論が深まる」 •「いろんな人が様々なことを考えて国の方向を決めているのが国会だね」 	<p>国会や内閣はどんな願いをかなえるためにあるのかな (10分)</p>

4 研究のまとめ（成果と課題～6学年授業研究会・ご指導から～）

- NIE 研究 1 年目として、今まで積み上げてきた実践に「自分の考えをもつ」ことを併せて社会科の学習とした。修学旅行後、衆議院解散、国会の学習の流れが同じタイミングとなった。新聞紙面にも各政党の考えや選挙の争点が連日のように記事となり、スクラップをするには困ることがなかった。
- 子どもたちのスクラップの様子を見ていると、記事の内容を理解して、貼り並べるグループ、同じキーワードに即して並べるグループ、記事の大きさを見て隙間無く埋めるように貼り合わせるグループとそれぞれの個性があることがわかった。スクラップ新聞を作る時には、記事をどのように貼り合わせると自分（たち）が伝えたいことが効果的に示せるか確認する必要があることを感じた。
- その後の学習では、スクラップをしたものから各争点で自分の考えを持つことに焦点を当てて学習を進めることにした。最後は、自分の考えに返すという主権者教育の立場から、一人一人の考えを尊重し、そこから見えてくる政治の在り方をみんなで考え、学習をまとめた。
- その後の様子から、以前まであまり政治に興味を示さなかった児童がスクラップの課題で政治についての記事を取り上げたり、教室内の会話でも「最近の政府は…」などと話がでたりした。また、近代の学習に戻り、明治維新などを取り上げた際も、政治が始まったきっかけや政府を作ろうと考えた人々の理念に共感し、学習を深めていく姿が見られた。
- 新聞を社会科として使う時、一方の立場に偏らない平等な視点がその記事の内容になっているかの吟味が必要。（または双方の主張が分かるものを用意する）
- 現代社会を扱う場面では、新聞はとても役に立つ。また、「上松町で日本最古の栗が出土した」などの歴史的な地元のニュースは、子どもたちの意識付け、動機付けのためには効果的であると考えた。
- 今回の授業では、不要な資料を提示し、子どもたちを混乱させてしまうということがあった。新聞を単元の「どの位置」で使うか、1 時間の「どの場面」で使うかを考えることはとても重要であった。